

## 我が家のミニ登山（その2）

弁護士 茶木 真理子



2013年の燦で我が家のミニ登山の紹介をさせていただきました。それから4年が経ちましたが、山登りの趣味は現在も続いています。今から思えば、2013年当時は「登山」というよりもハイキングに近いものでした。最近では子ども達の成長とともに、随分と登山らしくなってきた、「日本百名山」と言われる山を目指すことも多くなりました。ご存じの方も多いたとは思いますが、「日本百名山」とは文筆家で登山家でもある深田久弥（ふかだきゅうや）が日本の多くの山を踏破した経験から、品格、歴史、個性を兼ね備えた百座を選定したというものです。これまでに私が登った百名山はまだ十座にも及びませんが、その中から印象に残っている山をご紹介しますと思います。

### 1 筑波山（つくばさん、茨城県、877m）

百名山の中で初めて登った山です。百名山は、基本的には標高1500m以上の山が選ばれているとのことですが、百名山の中では最も標高が低い山になります。

とはいえ、決して楽な山ではなく、登りで体力を使いきり、下りはロープウェイを利用する事態となりました。「弁慶七戻岩」、「母の胎内めぐり」といった巨岩・奇岩が次々に登場するところに特徴があり、苦しい中でも楽しませてくれる山です。

### 2 大山（だいせん、鳥取県、1729m）

真夏に登ったということもありますが、これまで登った中で一番ハードな山でした。午前8時に登り始め、下山できたのは午後5時近くになっていました。当時、小学一年生だった我が子は、下れども下れども登山口に着かない状況に、いつになったら下山できるのか、と泣いていました。

ただ、苦勞して登った甲斐はあり、当日の天気にも恵まれた結果、六合目を過ぎたあたりからは日本海や中海がくっきりと見え、さらに山頂では中国山地の山々も展望でき、景色は抜群でした。



大山八合目あたりの眺望

### 3 霧島山（きりしまやま、鹿児島県、1700m）

霧島山は鹿児島県と宮崎県の県境に広がる火山群の総称で、その中で最高峰の韓国岳（からくにだけ）に登りました。韓国岳は、大山と標高はあまり変わりませんが、こちらは登り2時間、下り1時間半と、割と楽に登ることができました。この山の名前は「韓国」まで見えるという見晴らしのよさから来ているようで、その名のとおり山頂は、新燃岳、高千穂峰といった霧島山一帯や大浪池という火山湖を見渡すことができ、素晴らしいものでした。



韓国岳山頂から見た大浪池

### 4 開聞岳（かいもんだけ、鹿児島県、924m）

「日本百名山」の中で標高では筑波山の次に2番目に低い山です。登山経験者からは楽な山ではないと聞いていましたが、挑戦したのが春で気候が良かったためか、余力を残して下山することができました。らせん状の登山道が有名で、5合目あたりでは東側の池田湖や南側の長崎鼻を見下ろし、頂上が近づくとつれて今度は北側の枕崎に続く海岸線が見えるようになります。

登山も楽しめましたが、下山後に立ち寄った「たまたま箱温泉」という露天風呂から見る景色も最高でした。湯船につかりながら、間近に迫る大海原と「薩摩富士」と呼ばれる美しい山容の開聞岳が一望でき、一見の価値ありです。

適度な運動ができ、普段見ることのできない景色に出会い、そして、ご当地の美味しい料理や温泉がついてくる登山は、私にとっての何よりのリフレッシュ法となっています。深田久弥が残した「百の頂に百の喜びあり」の言葉のとおり、今後も色々な山にチャレンジしたいと思いますが、お薦めの山がありましたら、ぜひ教えてください。